

東京文化財研究所75年史編纂事業 (⑥情04-08-3/4)

『東京文化財研究所七十五年史 本文編』を以下のような内容で刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、校正を進めた。

【沿革】

前史

帝国美術院附属美術研究所時代

文部大臣直轄美術研究所時代

国立博物館附属美術研究所時代

東京国立文化財研究所時代

独立行政法人文化財研究所時代

【調査研究】

美術部

芸能部

保存科学部

修復技術部

情報資料部

国際文化財保存修復協力センター

管理部

【資料】

職員一覧

旧職員物故者略歴

年表

機構図

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。詳細は、61頁を参照。

平成19年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」 (⑥美04-08-3/5)

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を同所美術部が引き継ぎ2006（平成18）年度まで刊行を継続し、2007年4月に美術部が企画情報部となって、その編集・刊行事業を行っている。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成19年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成19年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった



⑥刊行物 Area19

2006（平成18）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り395号、396号、397号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』395号（20年度第1冊／2008年8月刊行）

（論 文）鄭岩（加藤直子訳）「漢代喪葬画像における観者の問題」

（論 文）綿田稔「自牧宗湛（下）」

（研究ノート）田中淳「尾高鮮之助と岸田劉生」

（研究ノート）小林未央子「なめらかな表面のために—小出櫓重再考—」

『美術研究』396号（20年度第2冊／2008年11月刊行）

（論 文）渡邊雄二「聚光院方丈障壁画を語る文脈」

（論 文）綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説—障壁画作期議論の前提として—」

（研究ノート）高橋秀治「藤雅三《破れたズボン》発見報告」

（展覧会評）「狩野永徳展」（綿田稔）

『美術研究』397号（20年度第3冊／2009年3月刊行）

（論 文）林玲愛（守屋美佐子訳）「高句麗古墳の角抵図に登場する「西域人」のイメージ」

（論 文）角田拓朗「満谷国四郎《自画像》の彷徨い—五姓田派の所在を問うことの意味—」

（図版解説）田中淳「萬鉄五郎《軽業師》および《太陽と道》」

（書 評）「大西磨希子『西方浄土変の研究』」（津田徹英）

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-08-3/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第3号

高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」

近藤静乃「現行法会における付物・付楽の諸相

—2008年勤修の法会に関する調査報告—」

